

## 第2学年 組 算数科学習の指導と評価の案

日時：平成 年 月 日( )

第 時間目

場所：2年 組教室(どんどんコース)

室(じっくりコース)

児童数： 名(男子 名、女子 名)

授業者：

### 1. 単元名 10 「かけ算」

### 2. 単元の目標

#### 算数への関心・意欲・態度

- ・乗法の意味を知り、日常生活において適用しようとする。

#### 数学的な考え方

- ・ある数量の大きさを、基準とする大きさのいくつ分としてとらえることができ、乗法の意味を理解する。

#### 数量についての表現・処理

- ・二の段、五の段、三の段、四の段の九九の構成のしかたや唱え方を知り、乗法九九を適用して問題を解決することができる。

#### 数量についての知識・理解

- ・乗法の式表示や用語について理解する。
- ・「ばい」という用語と意味を理解し、用いることができる。

### 3. 指導に関わって

#### (1) 教材観

児童が乗法を学習するのは、本単元が初めてである。本単元では、まず、乗法がどのような場面に用いられるかを理解させ、それをもとにして乗法の意味を理解させていく。その上で、二、五、三、四の段の順に九九を構成する。その過程で乗法の九九について成り立つ性質にも着目させ、その性質を用いて児童自らが九九を構成することができるよう展開している。このようにして、二～五の段の九九を身につけ、乗法の計算が確実にできるようになるよう構成されている。この中で乗法の意味を既習の加法と関連づけながら理解させることが主たるねらいである。

#### ・関連する学習指導要領の内容

(3)乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知り、それを式で表したり、その式をよんだりすること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

#### ・本単元で大切にしたい数学的な見方・考え方

全体の数量を求める場合、基準とする量(一つ分)のいくつ分としてとらえること。

基準とする量(一つ分)のいくつ分を、「かけ算」の式で表せること。

乗法の答えは累加によって求められること。

かけ算での指導というと、とかく九九を覚えることの指導にのみ力点を置きがちとなる。しかし、意味を伴わないまま九九のみを教えることは、学習者の数学的な見方・考え方を育てることにならない。本単元では、 $(一つ分) \times (いくつ分) = (全部の数)$ という乗法の意味をもとにして、計算の仕方を考えることを大切にしたい。

## (2) 児童観

1学期に比べ、算数の学習に対して前向きに取り組む子が増えてきた。特に、計算領域においては、算数が苦手な子でも、筆算などの計算するための方法を授業や自主学習で確実に身につけることによって、問題の正答率は高くなっており、結果、クラス全体の平均点も高い水準を維持している。

反面、ノートの足跡や交流における説明から、見方や考え方に弱さのある児童がまだまだいる、と感じられた。そこでプレテストにおいて、つまずきの程度・内容をさぐり、思考の鍵を身につかせ方を検討するために、次のことを調査した。

「一つ分の大きさのいくつ分」の考え方のもとになる数え方をしているか。

(例：2ずつまとめて数える、5ずつまとめて数える)

同数累加の考え方のもとになる計算で答えを求めているか。

(例： $3 + 3 + 3 = 9$ )

プレテストの結果から、次のことが明らかになった。

- ・「一つ分の大きさのいくつ分」の考え方については、三問の問題の中で、一問でも用いることができた児童は、名中名であった。用いることのできなかつた児童で、考え方を記入できなかつた児童が名いることから、具体的な場面や具体物を使い、言葉と結びつけた指導が必要である。
- ・同数累加の考え方をうけることができた児童は、名中名であった。用いなかつた児童の中には、「一つ分の大きさのいくつ分」の考え方のみで考えた児童もいるが、名は半具体物一つ一つ数えるのみに留まっていたので、個別指導で、2とびや5とびの概念を教えるようにしなくてはならない。

## (3) 本時の指導の立場

プレテストの結果より、本時の指導で、ねらいにせまるため特に大切にしていきたいのは次の点である。

立式

問題が、「3こずつ」(一つ分の大きさ)入ったパックが「4つ」(いくつ分)ある。

「ぜんぶでなんこ」(全部の数)を求めるので、かけ算の式を立式することを想起させる。

個人追及の場

おはじき(じっくりコース)、図(じっくり・どんどん両コース)を用いて、思考を深めさせる。

評価

評価問題を、同数累加の考えで解くことができる。

## 4. 研究主題に関わって

「数学的な見方、考え方、解決の仕方です課題追求できる力を育てるを育てる授業の創造」  
課題に対して自分の考えを持つことができる個に応じた指導・援助のあり方  
視点を明確にした交流ができる学習集団のあり方

本校の児童の実態より、計算力はあるが、なぜその計算の仕方でのよいのかといったことや、文章題は解けるが考え方を絵や図、言葉で説明するといったことが苦手であるといった数学的な考え方をういて説明する力が弱い面が見られる。事前に行つたプレテストの結果でも、答えは出せても、考え方をうまく表せない子が数名いることが分かっている。そこで、習熟度別少人数学習の設定を行い、一人一人が課題に対して自分の考えを持つことができるよう、指導・援助していきたい。

本時の取り組みとして、次のように考えている。

**【研究内容】** その子が自分の考えで課題追求を行い、課題に対する自分の考え方をもつことができる**個に応じた指導・援助の在り方**

評価基準をふまえた指導の工夫

プレテストで捉えた児童のかけ算の基本的な思考の習熟の状況と、単元の学習内容から考えた評価基準や少人数指導を考えた単元指導計画を作成する。

個を伸ばす指導の在り方

- ・児童の実態を把握し、個を伸ばす具体的な指導を明らかにしていく...プレテストをもとにしたコース別の指導をすることで、児童の習熟度にあつた学習を仕組む。
- ・課題解決の見通しのもたせ方...提示された問題の場面把握を「分かっていること・求めること・前と比べて」を視点にし、課題化につなげる。

## 5. テーマとの関わりにおける児童の実態

個人追求における実態

個人追求の場においては、「よし、やってみよう。」と意欲を見せる児童がほとんどであるが、計算処理はとりあえずできて、自分の考えに自身がもてるほどの見通しをもつた課題追求はできていない児童もいる。したがって、関連のある既習の学習部分についての基礎的・基本的な力は、確実につけておく必要がある。